

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	理念の共有は行っているため、今、取り組んでいることと探しに工夫を加え、生活の中で自然に行えるものにし、今後も継続していきたい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	運営推進会議のメンバーや地元の職員を通し、地域の行事等の情報収集を行い、地域行事に参加することにより、今後も地域に理解を求めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	今後も継続し、できる限り近隣の方たちと日常にかかわりが、持てるように心がけていきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	運営推進会議のメンバーや地元出身の管理者や職員を中心に、地域の方たちとの交流をさらに深められるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内で話し合い、川内中学へ学習会の講師として訪問し、地域の子どもたちが高齢者や認知症に対し、より理解を深めていただけるよう取り組んでいる。	○	今後は小規模でも地域のネットワークの拠点になれるような組織づくりを行い、地域に貢献していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議やミーティング等において評価の意義や結果を全職員が周知し、サービスの質の向上に活かせるよう話し合い、改善に努めている。管理者、職員は自己評価を行うことで、再認識し、改善するよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ユニットでテーマを決めて職員、実践報告等をさせていただき、サービス向上に向けての意見や情報提供を受け役立っている。	○	今後は運営推進会議を活かした双方の意見交換を行い、地域との協力体制をつくっていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度上で疑問に思うこと等を質問に行くことや電話にて相談することでサービス向上に取り組んでいる。	○	今後も継続し、できる限り市町村とのかかわりが持てるように心がけていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	理解はしているが、現在、必要な方がいないので、活用していないが、研修や勉強会等で学び、必要時は活用し、支援していきたい。	○	今後にむけて、学ぶ機会を勉強会等で作っていき、必要な人には活用した支援ができるようにしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などで学んだことを職員会議に発表して、皆で努力するよう取り組んでいる。	○	今後も虐待防止について話し合う機会をつくり、防止に努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約、解約時に利用者及び家族に十分な説明を行い、納得した上で契約等行っている。	○	利用者や家族が不安、疑問点を残さないように、十分な説明を行い、納得の上で利用できるようにしていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の会話の中で職員からの問いかけを行ったり、利用者から意見や不満を話せる体制を作り、それを反映させている。利用者から意見や不満を伝えやすい雰囲気づくりや伝えられる場(茶話会等)の提供を行っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に報告をしているが、なかなか来られない方には請求書等と一緒に文書にて近況を伝えている。	○	病院受診の経過報告や金銭管理についての報告も行なっているが、家族の意見が活かせるように、もう少し工夫をしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苑内の見やすい位置に、苦情処理のポスターの掲示や意見箱を設置し、苦情相談窓口を設けている。また、面会時に家族への声かけにて意見を伺い、意見、苦情等あれば記録を行い、全職員に申し送りを行うようにしている。	○	家族等と、気軽に色々話せる機会を増やし、不満や苦情、意見等を反映させ、サービス向上に努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議、ミーティングを定期的に行い、全職員から、意見を聞き反映し、サービスの質の向上に活かせるようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間帯に人数を確保しており、対応できている。職員の希望を聞きながら、勤務調整を行っている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全利用者に対し、できる限り毎日声かけを行い、職員の異動は一部のみにとどめ、段階をおいて行うようにしている。また、行事等で他ユニットの利用者とのなじみの関係が作れるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	<p>今後は交流の機会をもっと増やし、勉強会やネットワークづくりをし、それをサービスの向上に役立てていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	<p>今後は中堅職員の育成を行い、組織全体の向上に向けて、職員個々の努力や実績を身近で把握し、意見の反映ができ、各自が向上心を持って働けるように努めていきたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	<p>利用者が納得し、安心した生活が送れるように意見を尊重し、信頼関係を築き、利用していただけるように努めていきたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	○	<p>利用者同様、ご家族が安心して、預けられるように、意見を取り入れながら、サービス向上に努め、信頼関係を築けるように努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中で、一番、優先されるサービスを中心に提案するようにしているが、他のサービス利用も含めた対応も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	無理強いせず、本人の生活リズムに合わせてながら、徐々に場の雰囲気や職員、他の利用者に馴染めるように考慮している。また、家族と相談しながら、居室に馴染みのある家具等を持ち込む事で、環境づくりを行い、1日でも早く馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で、一緒に調理や清掃等の家事や、手芸、菜園等の軽作業を行いながら、信頼関係を築き、支えあえる場面づくりをしている。	○	共に支え合いながら、利用者が生き生きと生活できる場を増やしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会や面会時等の機会を利用しながら、コミュニケーションを図り、現状報告や意見、希望等を話し合い、一緒に利用者を支えていく関係を築いている。	○	今後も継続し、信頼関係を深めていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族会や面会時等の機会には、家族だけで過ごせる時間や場を提供し、より良い関係が築けるように配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に情報を得る、または相談をする等で馴染みの人や場所の情報を得、面会や電話の受け入れの機会を作ったり、その場所の話をしたり、出向く等の支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が馴染みの関係が作れるように、行事等で機会を作り、利用者個々が孤立しないよう職員が他利用者との橋渡しを行い、かかわりが持て、支えあえるような関係ができるように支援している。	○	利用者一人ひとりが安心して、楽しく生活していけるようコミュニケーションの場を増やし、かかわり、支えあえる関係づくりを行っていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了された利用者の家族の方にも、行事案内を送り、参加を呼びかける等、気軽に来苑できる機会を作り、継続してお付き合いさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者、家族の希望を把握し、できる限り意向に沿えるよう努めている。困難な場合は、本人本位に検討し、利用者個々の趣味や生活リズムを大切にした支援を可能な限り行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に利用者本人、家族より情報収集を行うとともに、前施設、病院等からの情報も参考にし、把握に努めている。また、コミュニケーションを図っていく上で情報収集するようにも努めている。	○	利用者の経験や大切にしてきたもの等を把握し、その人らしい生活が送れるように支援していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	総合記録表を使い、利用者個々の健康状態、有する力等を把握できるように努めている。	○	総合記録表を活かし、職員一人ひとりが利用者個々の健康状態等を把握できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人、家族の意見や希望を取り入れ、関係者と十分に話し合い、個々に合わせた介護計画を立てている。	○	もっとたくさんの家族にカンファレンスに参加していただけるように呼びかけて、より良い介護計画を作成し支援していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一度の介護計画の定期的な見直しのほか、状態の変化が見られた際には、その都度、関係者とカンファレンスを行い、現状に即した新たな介護計画を作成している。	○	個々の状態に合わせたケアが行えるように継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの1表、2表を介護記録の表紙に貼ることにより、支援項目が一目で分かり、職員が周知しやすくなっている。また、記録内容も見だしや色分けにより、気づきや支援項目に沿った記録ができるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者本人や家族の状況や要望に応じ、協力医の意見他施設との連携を図り、柔軟な支援体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアによる、教養講座を開催したり、必要性に応じて地元の民生委員や消防関係、中学校等教育機関と協力しながら支援している。	○	徘徊者に対する協力や今後は災害に対する協力体制も相互に図っていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他事業所との連携を図り、できる限り、利用者や家族の意向が反映されるように配慮している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じ、連携を図り、できる限り、利用者や家族の意向が反映されるように、配慮しているが、協働はできていない。		今後、必要性に応じ協働していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族等の意向を踏まえ、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、医療支援を行っている。	○	今後も本人や家族の意向を踏まえた医療を支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医との関係を築き、利用者の状態観察の記録を行い、家族の了解を得た上で、専門医にて治療や相談が受けられる体制をとっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員として看護師も採用しているが、協力病院の看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入院中は面会を重ね、安心して過ごせ、なじみの関係が継続できるように配慮している。また、病院関係者との連携を図り、情報交換を行うことで、早期退院や退院後の生活がスムーズに行えるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、あるいは終末期の受け入れの用意はあり、かかりつけ医の協力のもとで行っていく方針である。	○	今後、必要性が生じた場合は、協力医を交え早期に家族等と話し合いを持ちたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者が重度化、終末期の日々をよりよく暮らせるよう、協力病院や看護師を交え医療連携の支援体制は整えている。	○	今後、必要性が生じた場合は協力医とともに、チームとしての支援を行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者本人、家族の意向にできる限り沿えるように、関係者と話し合いや情報交換を行っていき、住み替えのダメージを防ぐようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いや、利用者個々のプライドやプライバシーにも配慮した声かけや対応を行っていくように、全職員が取り組んでいる。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者本人のしたいことをしっかりと聴き、十分な説明を行った上で自分で決定できるよう支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必要に応じ、センター方式を活用し、その人らしい生活ができるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分の好みでの洋服選びや、毛染めやパーマは出張美容を利用し、また、利用者の希望があれば、希望の美容院に行けるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に配慮し、職員が見守りながら、盛り付け、配膳、後片付け等個々の能力を活かした支援を行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者個々の好みで、おやつや飲み物等を楽しめるよう工夫し、本人が望めば、買い物で希望の品も購入している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態に合わせて、夜間はおむつでも日中は紙パンツを使用し、排泄のパターンをつかみ、気持ちよく排泄できるよう支援している。	○	今後も利用者個々の力や状態に合わせて、気持ちよく排泄が行えるように継続し、支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の体調、希望もあり、毎日入浴は可能。夜間入浴も取り入れている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々のパターンを把握し、眠れない入居者には軽作業、レク体操に参加を勧めるなど対応している。その日の状態に応じて休息や睡眠がとれるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族から得た趣味や生活歴をもとに、楽しみや喜びのある生活支援を行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々のできる力に応じ、金銭管理や支払いの支援をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	可能な限り、利用者や家族の希望を受け入れ、買い物や外出等戸外に出かけられるように支援をしている。	○	今後も継続し、利用者や家族の希望を可能な限り受け入れ、外部の環境に触れ、社会に溶け込んだ生活ができるように支援していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の体調等考慮しながら希望を取り入れ、外出の支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や時期にあった葉書等の文書、電話のやりとり等が日常的に行えるように支援をしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人友人等の訪問の際は居室やホール等の場所を確保し、居心地よく過ごせるような配慮をしている。また、来客用の寝具や食器を用意しており、宿泊も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が熟知しており、身体拘束をしないケアを心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には鍵をかけないケアを心がけている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が昼夜通して見守りを行い、利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者一人ひとりの分かる力に応じ、事故等の予想ができるものに関しては排除しているが、一緒に行動する中で、危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルがあり、職員がすぐ見ることができる場所に保管している。また、定期的に救急救命法の訓練を受けたり、会議等で話し合い事故防止に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	順次職員が研修をうけ講習を行い、対応マニュアルを作成している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議を利用し、地域の方にも協力を呼びかけている。また、定期的に災害訓練を実施している。	○	地域の人々との交流を深め助け合える関係づくりをしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等に利用者個々の状態や、転倒等の起こり得るリスクについての説明を家族に行っており、抑圧感の無い暮らしについて、家族とともに対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異常は早期に発見し、情報の共有化を図り、対応に結び付けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に分かるように、薬剤情報の掲示や協力医の説明、調剤薬局の情報を文書にて申し送るようにし、服薬の支援を的確にするように努めている。また、症状の変化に対しても、必ず記録を行い、看護師や医師に伝えるように連携を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給やレク体操に参加を勧めている。食事等も食物繊維の多いものを取り入れるように支援しているが、それでも排便困難の利用者に対しては、かかりつけ医と相談するようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後はうがい、歯磨きの支援をしている、特に夕食後は、定期的に入れ歯を薬液に浸す等のケアを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録表に利用者個々の食事量や水分量をチェックし、記録しているが、特に食欲が落ちている利用者には、好みや食べたいもの等を配慮し、必要な栄養摂取や水分量が確保できるよう支援を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	協力病院や公共機関提供の感染症予防のマニュアルがあり、それに則った対応を実践している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	生鮮食品は常に新鮮で安全なものを使用するように心がけている。また、台所、調理器具等も清潔に管理し、定期的に冷蔵庫や食品庫の点検や清掃を行い、食中毒の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、利用者と一緒に花を植えたり、メダカを置き明るい雰囲気づくりを心がけている。一緒に季節の草花を植えたりメダカの餌やりをしたり自由に出入りできるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく清潔を心がけ、季節の草花を飾ったり、共有のスペースは誰もがくつろげるようにし、毎月の童謡を貼り、皆で楽しんでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下に椅子やソファを置き、利用者が思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者家族と相談し、馴染みのある家具等を居室に置き、利用者が安心して、心地よく暮らせるように工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室や共有空間の換気は定期的に行い、個々の体調に合わせ、快適に過ごせるように配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで、木材を多く使用し、落ち着いた構造になっている。居室は一室八畳の個室になっており、プライバシーに配慮されているが、居室扉を開けると、職員や利用者があり、安全かつ家庭的な環境が保たれるように工夫されている。	○	今後も利用者個々のプライバシーの保持やあたたかい環境づくりを心がけていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレには、表札や表記を行い、混乱を防ぐようにしている。また、利用者個々に対し「できること探し」という取り組みを行い、自立に向け支援している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日光浴をしたり、利用者と一緒にガーデニングや菜園づくりを楽しみ、また、バーベキュー、ティータイムの場として使用する等多彩な活用をしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者が季節を感じられるような支援を行っている。(例 七夕には、短冊の飾りつけや流しそうめんを行い、地域のボランティアによる着付教室で、全員が浴衣を着て阿波踊りを楽しむ等) また、利用者の趣味に合わせた手芸 (エコバッグ作り、ちぎり絵) を楽しみ、それを地域の文化祭にも出展している。